



エコアクション21[®]
認証番号 0006763

エコアクション 21

環境経営レポート

対象期間：2023 年 4 月～2024 年 3 月

2024 年 9 月 1 日 発行

会社概要



株式会社

徳永電機

TOKUNAGA

1) 事業者及び代表者名

株式会社徳永電機
代表取締役 徳永 雄一郎

2) 本社・工場 所在地

〒380-0961
長野県長野市安茂里小市4-3-14

3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 徳永 雄一郎
担当者 槇尾 和也
連絡先 電話 026-227-2249
FAX 026-227-2451

4) 事業規模

社員数	395	(請負社員)	375
(本社)	(20人)		
資本金	1,000万		
納品用車両	4台		
顕微鏡台数	120台		
クリーンルーム 床面積	430m ²		

- 認証・登録範囲 本社・工場、20人
※環境レポートデータの構内請負業務については
集計から除外してあります
(取引先社内での環境マネジメントシステムに
取り込まれているため)

● 事業活動

電子部品の製造・検査・請負業、
農産物栽培・販売及びマスク製造・販売



[太陽光発電システム]



環 境 経 営 方 針

<環境理念>

株式会社徳永電機は、電子部品関連事業、また、太陽光発電による自然エネルギー活用 of 事業を通じ、以下の環境方針を定め環境保全活動(省資源・省エネ・リサイクル)を展開し、社会に貢献します。

<行動指針>

全従業員が環境負荷低減の意識を持ち、環境にやさしい行動を心がけ、次世代に健全な地球環境を引き継ぐべく環境保全活動を行い、継続的改善に努め 自主的・積極的に、環境への取り組みを推進します。

1. 電力使用量を減らし、二酸化炭素の排出量削減に取り組みます。
2. 野菜の廃棄を減らし、再生利用の取り組みを推進します。
3. 水資源の節水に努め総排水量を削減します。
4. 納品業務では、常に使う燃料による排気ガスの環境負荷を認識し、改善・エコドライブに努めます。
5. 環境保全に対する目的・目標を設定し、取り組み結果を見直すことにより、継続的な環境改善に取り組みます。
6. 部材・消耗品の購入において環境に配慮したグリーン購入に取り組みます。
7. 再生可能のエネルギー比率を高めます。
8. 環境に関する法や条例を遵守するとともに地域社会との調和に努めます。

改定日 平成25年 6月 1日

株式会社 徳永電機

代表取締役 徳永雄一郎

環境経営目標

(中長期)

当社は以下の目標をあげ、環境活動に取り組めます。(基準年度 令和4 / 2022)

1. 購入電力を3年間で2.0%低減させること。(2022年実績 434,622 kWh)
2023年 430,276 kWh(1.0%) 2024年 428,103 kWh(1.5%) 2025年 425,930 kWh(2.0%)
2. 廃棄物排出量を3年間で1.0%削減させること(2022年実績 8.916 t)
2023年 8.871 t (0.5%) 2024年 8.849 t (0.75%) 2025年 8.827 t (1.0%)
3. 総排水量を3年間で2%削減させること(2022年実績 898.00 m³)
2023年 889.02 m³ (1.0%) 2024年 884.53 m³ (1.5%) 2025年 880.04 m³ (2.0%)
4. 温室ガス排出量を3年間で2%削減させること(2022年実績 213,832 kg-CO₂)
2023年 211,694 kg-CO₂(1.0%) 2024年 210,625 kg-CO₂ (1.5%) 2025年 209,555 kg-CO₂ (2.0%)
5. グリーン用品を購入する (全購入額/エコ商品(2022年実績 42,316 円)
2023年 12 % 2024年 13 % 2025年 14 %

【製品・サービスに関する目標】

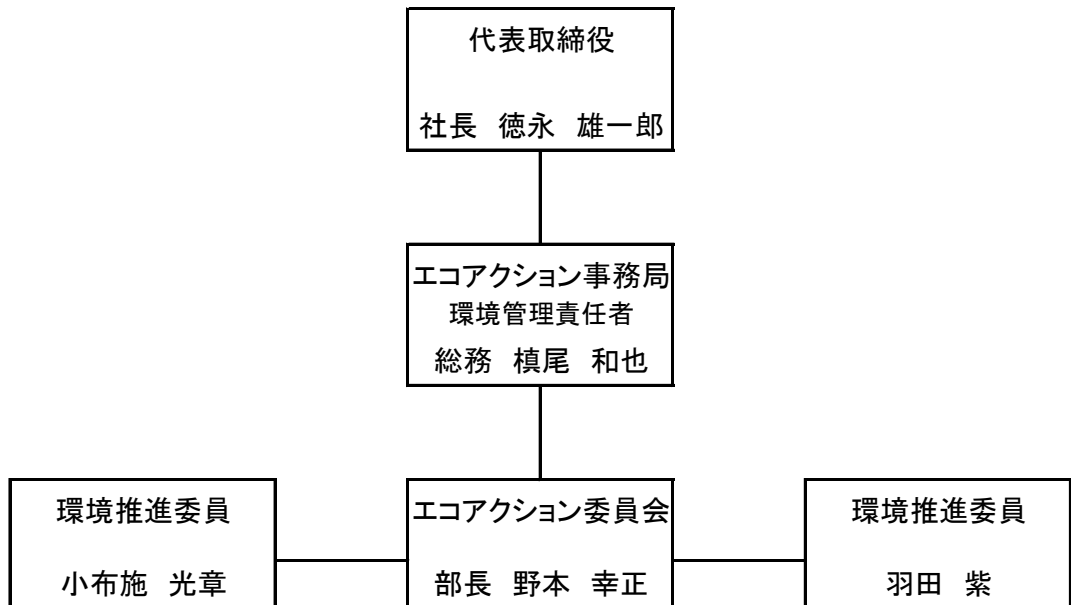
- 中長期目標 敷地内の緑化を推進して気候変動に対策を講じる
省エネタイプのエアコンを導入
社内文書の電子化
- 令和5年度(2023)目標 LED照明の増設と感染対策
エアーコンプレッサーの騒音低減
- 新規事業 目標 LED照明による生育から、直射日光を利用した野菜の生育を増やす
野菜生育室の送風管理に、事務所内の空気循環と温度管理

令和5年度(2023) 目標		
1 購入電力を2022年度より1%削減をする	430,276	kWh
2 廃棄物排出量を0.5%以内に抑える	8.871	t
3 総排水量を2022年度より1%削減する	889.02	m ³
4 温室効果ガスを2022年度より1%削減する	211,694	kg-CO ₂
5 グリーン用品を購入する	12	%

環境経営計画の内容

1. 電力消費量の削減(二酸化炭素排出量の削減)
 - 不必要な電源はこまめに切り、昼休みの未使用箇所は照明を消灯する
 - 電力監視装置の警告音が鳴ったら、即座に電力使用量の多い設備の電源を落とす
 - 現在行っている省エネ・節約・断熱の継続
2. 納品車両の使用燃料の削減(納品車は 基本エコドライブ)
 - タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つように努める
 - 急発進・急加速・不必要な急ブレーキ等、アクセルムラのない安全運転を励行する
 - エアコンの利用を控えめにして冷やしすぎない/暖かくしすぎない
3. 廃棄物排出量の削減
 - 再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入し使用する
 - 管理外廃棄物、持ち込みの抑制を強化して、廃棄物の分別を推進する
 - 野菜くずを廃棄するときは水分を抜き、圧縮する
 - 節約して、無駄を省くことでゴミを出さない努力をする

環境活動実施体制



環境管理責任者

環境理念及び環境方針を策定し、全社員に周知させると共に環境への取り組みを適切に実行するための資源の提供を行う。
また、環境会議を実施して環境、マネージメントシステムの見直しを行う。

エコアクション事務局

ガイドラインの要求事項を満たす環境マネージメントシステムを構築・運用に責任を持つと共に、環境に対する権限を持つ。

エコアクション委員会

計画書・手順書に基づき、それを実行し、且つ環境監査を行い、問題がある場合には是正または予防処置を指示し問題解決に努め、結果を環境管理責任者に報告する。

環境推進委員

環境方針、環境目標を基本に定められた活動計画に従い活動に取り組む。

環境マネージメントシステムに関する組織は上図のとおりです。

環境目標とその実績

当事業所は、エコアクション21を取得後、継続的に環境活動に取り組んでいる。
2021年度の目標と実績は、以下の通りである。

		各年度の目標値と実績(各年度は4月～翌3月)			
環境目標(2023年度)		2022年度		2023年度	
購入電力を2022年度より1%削減 2022年度を基準 kWh	目標	1%削減	達成	1%削減	達成
		430,416	△	430,276	○
	実績	434,622	101.0%	407,548	94.7%
廃棄物排出量を2022年度より0.5%削減 2022年度を基準 t	目標	0.5%削減	達成	0.5%削減	達成
		8.927	○	8.827	△
	実績	8.916	99.9%	8.872	100.5%
総排水量を2022年度より1%削減 2022年度を基準 m³	目標	1%削減	達成	1%削減	達成
		892.0	△	889.0	○
	実績	898.0	100.7%	856.0	96.3%
温室効果ガスを2022年度より1%削減 2022年度を基準 kg-CO2	目標	1%削減	達成	1%削減	達成
		211,941	△	211,694	○
	実績	213,832	100.9%	200,547	94.7%

○: 達成又は良好

△: 達成には至らないが許容できる

×: 未達成

※上記のデータは、構内請負業務については集計から除外してあります

※購入電力のCO2排出係数は、【0.431】

(中部電力 平成2019年度実排出係数を適用)

取り組み結果の評価

購入電力の削減

○昨年対比で6. 23%の削減に成功し目標を達成することが出来た。
こまめな節電の呼びかけやエアコンの使用量を抑えるなど、地道な
努力により削減が出来たと思う。次年度も継続して行っていきたい。

廃棄物排出量の削減

○目標数値には届かなかったが、昨年実績より削減が出来ているので△とした。
出荷量は年々増加している中での削減もあり、ロス等も減少していることが伺える。

排水量の削減

○対前年実績に対して4. 58%削減に成功し、目標の1%を大きく上回る成果を出すことが出来た。
こまめな節水の呼びかけや閉め忘れ確認により、実現できたのだと思う。
毎週のミーティングや継続的な声掛けを引き続き行っていきたい。

二酸化炭素排出量の削減

○目標の1%を大きく上回る5. 3%の削減をすることが出来た。
定期的なミーティングや声掛けにより削減につながったと考えている。
次年度も目標達成に向け継続して行っていきたい。

グリーン用品の購入

○グリーン購入調達12%の目標を立て、購入率は102.7%で終わった。
定番品はすでに切り替えているため、今以上の購入比率は難しいかもしれない。

製品の輸送サービスにおけるエコドライブの実施（環境配慮）

○安全を兼ねた法定速度の遵守、急ブレーキ等のないエコ運転+エアコンの適温設定を引き続き継続している。
○納品回数を均一化し、配送ルート省力化も実行している。

まとめ・考察

今期に関しては、廃棄物排出量のみ目標値に達成することが出来なかったが
他項目に於いて目標を大きく上回る結果となった。生産が増加傾向にある中で
この結果につながったのは大きな成果と言える。

2024年度以降の目標

環境年度 期首 4月 期末 3月

		各年度の目標値			
環境目標(2023年度末)		2023年度 実績	2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標
購入電力を3年間で2%低減させる 2023年度を基準 kWh	目標		1%削減 403,473	1.5%削減 401,435	2%削減 399,397
	実績	407,548			
廃棄物排出量を3年間で1%低減 2023年度を基準 t	目標		0.5%削減 8.828	0.75%削減 8.805	1%削減 8.783
	実績	9			
総排水量を3年間で2%低減させる 2023年度を基準 m³	目標		1%削減 847.4	1.5%削減 843.2	2%削減 838.9
	実績	856.0			
温室効果ガスを3年間で2%低減 2023年度を基準 kg-CO2	目標		1%削減 198,542	1.5%削減 197,539	2%削減 196,536
	実績	200,547			

※上記のデータは、構内請負業務については集計から除外してあります
※購入電力のCO2排出係数は、【0.431】（中部電力 2019年度実排出係数を適用）

今年度の実績を基準に計画を立てた。

- ①2023年度の実績を元に今後、同程度削減は難しいと考え、削減率は据え置きとした。
年々増加傾向にある野菜の栽培量が大きく影響してくるため、次年度は1%とした。
夏場はエアコンの温度設定を高く、冬は温度設定を低く設定し継続的な削減に取り組んで行きたい。
- ②野菜栽培事業では年々、出荷量が増加している為、大きな削減は見込めないと考え0.5%の削減とした。
野菜のロスが大きく影響してくるため、無駄のない栽培に取り組んでいく。
その他、段ボールの箱の中に入っている緩衝材は、捨てるのではなく再利用することでゴミの排出量を減らしている。
- ③生産量の増加に伴い、大きな削減は難しいと考え次年度は1%削減とした。
使用時期の分散やチェックにより来期も継続して削減を行っていく。
月初めのミーティング等を活用して更なる削減を目指したい。
- ④主要エネルギーが電気となる為、購入電力と同等の削減率とした。
ガソリンの使用量にも注視し、取り組みを行っていく。
- ⑥グリーン用品購入を継続する。
白板マーカーも詰め替えタイプを購入し、インクカートリッジの交換で対応している。
テプラのカートリッジなど、リサイクル可能な商品は、再利用に回している。
- ⑦製品の輸送サービスにおけるエコドライブの実施
エコ運転を心がけ、環境意識をもってもらうため、ドライブレコーダーを納品車両に導入している。

【環境活動計画 次年度 取組内容】

空調温度の適正化 夏期28℃以上、冬期22℃以下
節水の管理方法の徹底
適正運行管理による燃料使用の効率化
LED照明への変更
グリーン用品購入の追加
周辺施設への資材貸し出しによる地域社会への貢献
花壇の緑化
段ボール等の緩衝材の再利用と資源分別

環境上の緊急事態への準備及び対応

●環境上の緊急事態は、ありません。

原則として火災や地震以外の緊急事態は想定されません。

日々、消防法に基づく適切な取り組みをしております。

緊急事態に備えて、地震・火災想定避難訓練を10月に行いました。



環境関連法規への違反、訴訟等の有無

□当社に適用される法規制等と現在の遵守状況

環境関連法規等の名称	遵守事項	評価
騒音規制法	特定施設の届出、規制基準の遵守	○
長野市公害防止条例	空気圧縮機	○
廃棄物処理法	廃棄物保管基準、委託契約書・業者許可証確認、 マニフェストの確認及び保管、産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出、	○
消防法	消火器具設置、自動火災報知機設備、誘導標識	○
建築基準法	昇降機定期検査、塔内器具・配線等点検調整	○
フロン排出抑制法	業務用エアコンからの異音、損傷、腐食等の点検	○

●環境関連法規の違反はありません。

尚、関係当局より違反等の指摘・指導・勧告は過去5年間ありません。

外部からの苦情・訴訟なども一件もありません。

太陽光発電施設への苦情もありません。また、自主的に法を遵守しております。

地域貢献

●中学生の（職場体験）の受け入れ。

市内の中学校より職場体験の希望があったため、マスクの製造体験を実施いたしました。

また生徒による企業訪問質問会なども受け入れを行っています。



代表者による全体の評価と見直し

2023 年度の環境活動において、エコアクション 21 のガイドラインに基づき、従業員全員の積極的かつ地道な取り組みにより、目標を達成することができ、二酸化炭素排出量、排水料などの項目で設定した目標を大きく上回る結果で、環境への負担を軽減することができました。

これからも当社は、企業活動を通じて環境負荷を低減し、発展を遂げてまいります。

令和6年 9月 1日

株式会社徳永電機
代表取締役 徳永 雄一郎